

市長が行く

No.27



茂原市長 田中豊彦

目には見えないけれど大切なもの

2011年が始まり、政局は混迷を深め、経済も先行きが厳しいさなかの日本に、心温まる現象がひろがりました。

かつての人気アニメ「タイガーマスク」の主人公を名乗る人物から養護施設へ「愛のランドセル」が届けられ、それに感銘を受けた誰かが模倣し、それがだんだんひろがっていったことです。2009年2月号のこのコラムで「善意の連鎖」についてふれたことがありましたが、茂原市でも多くの方々のご厚意で、次々とAEDのご寄付を頂き、小中学校はもとより、公共の施設にも設置することができたことがありました。このような出来事に出会うたび、人の心の優しさに感動します。

新聞やテレビのニュースでご覧になった方も多いかと思いますが、昨年の暮れのある寒い夜に、茂原駅前駐車場で一人の赤ちゃんと産み落とされました。その子は現在、こども病院に入院し無事に育っています。生まれたときから両親がいらないというハンデを背負ってこれから生きていかなければならないその子に、少しでも多くの幸せなときが訪れることを願ってやみません。嬉しいことに、産着のないその子のため

に、市の職員がカンパをして必要なものを届けたという話を聞きました。茂原市の職員、たつてタイガーマスクに負けていません！

自分の損得を超えて、人を思いやれる心を持つことは、人として、とても貴重なことだと考えます。それは目には見えないけれど、大切なものです。ただのはやりではなく、本当の思いやりが、人から人へとどんどん広まっていったほしいものです。ただ物を贈ることがいいと言っているのではありません。気持ちを贈ることが大事ということですよ。優しい言葉ひとつでも、人は幸せな気持ちになれるものです。

これからの市の未来を考えるとき、私はそこに光が見えるような気がします。「善意のまち茂原」はたとえ大きな借金を抱えた自治体であろうと、やる気さえあれば、築いていくことができると思うからです。どうぞ市民のみならず、まず自分の身近なところから人に優しく、いつでも思いやりを大切に生活していきましょう。私も頑張ります。

追記 本市にも1月14日、女性の「伊達直人」さんが現れ、現金などの寄付をいただきました。